

高瀬山

能登町立小木中学校 学校だより 1月号

令和4年1月11日(火)

メールアドレス:jhs-ogi-daihyo@noto.ed.jp

HPにもアップしています。QRコード⇒



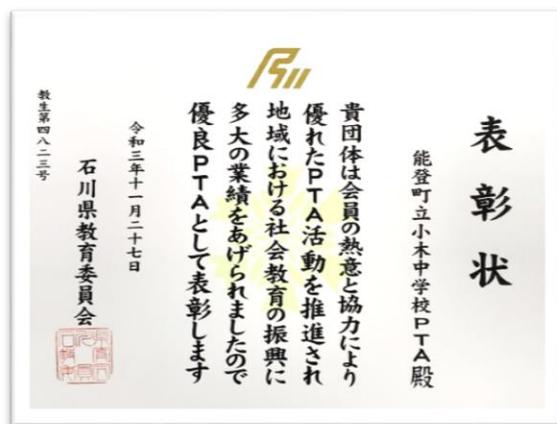
「小木中学校 PTA 県表彰!!」

11月27日(土)に行われた「石川県PTA大会」で、小木中学校PTAが『令和3年度優良PTA石川県教育委員会表彰』を受けました。

本校PTAは、「愛の一声運動」「親子除草作業」「ファミリー学級」「広報誌玲瓏の発行」など、1年間にさまざまな活動を行っています。また、2011年、当時の生徒が始めた防災教育を支え、毎年行われている能登町総合防災訓練でも中学生と一緒に活動を進めてきました。

さらに、令和2・3年度は地区別研究指定発表校に指定され、「コロナ禍でもできるPTA活動をめざして」という研究テーマのもと、コロナ禍の中でさまざまな工夫をしながら研究を進めてきました。10月17日(日)には、PTA役員の皆さんがその成果を発表しました(小木中の発表を聞かれた方の感想を下に掲載しました)。それらの活動が認められ、今回の表彰となりました。

小木中学校の教育活動におけるPTA会員の皆さまのご理解とご協力に、心より感謝致します。そして、今後もより一層のご協力をお願い致します。



今回の石川県PTA連合会地区別研究指定発表会、能登町PTA連合会研究大会のオンライン開催を視聴して、コロナ禍で新しい生活様式となっている現在でも、学校と家庭、地域が連携をとり、子ども達のために行動して取り組んでいくことの大切さを感じました。小木中学校PTAの方々の発表は、R2年度の経験を活かし、R3年度でコロナ禍でもできる活動へ工夫して行われていたことを知り、素晴らしいなと思いました。中でも、津波避難訓練のPCで安否確認をとるシステムや、睡眠学習会の家族ごとの座席、スマホで問診票に答える等は、ITをうまく活用したすごく良い取り組みで、今後に活かせる実践例だなと思いました。

小木中学校の発表は、学校の特性を生かし自分たちでできること、取り組めることを見つけ実施していたことにおどろきました。少人数ならではの取り組みにもおどろかされました。何か良い事をしようとか、背伸びをするわけではなく、知りたいこと、取り組みたいことにチャレンジすることの大切さを教えて頂きました。

“学校と家庭をつなぐ”ということ、様々な取り組みがあるのだと小木中学校さんの発表を見て思いました。“津波避難訓練”では、保護者の方と一緒に登下校をする等、子どもたちの学校に入るまでの安全についても保護者の方とともに考える機会があり、より深く、実践的な訓練になっていると思いました。また、“子どもと家庭をつなぐ”ということ“睡眠学習会”の実施では、ご家庭の力を借りることで子どもへの指導に効果が増すと思いました。教師からも保護者さんからも声かけがあることは、児童・生徒にとって相互からのアプローチで意識が高まると思います。改めて、学校と家庭は共に子どもたちのために力を合わせていく必要があると感じました。

『今、なりたいものがありますか?』 第5回キャリア集会

今回の講師は中川です。私は、今までに習い事を5つしていて、特に茶道は18年間続けていました。「習い事が今何かの役に立っているか?」と考えてみると、今の仕事に直接役立っていることはあまりないけれど、仕事を離れたときの気分転換にピアノを弾いたりお茶をたてたりしていて、習っていてよかったなと思っています。

中学生の皆さんは、今なりたいものはありますか?私は幼稚園のころから高校生まで、その時その時に何になりたかったかちゃんと覚えています。優しいお姉さん、ピアニスト、薬剤師、養護教諭・・・なりたいものはどんどん変わっていきました。なりたいものはどんどん変わっていてもいい、そして今なりたいものが無くてもあせることはないのです。これからきっと見つかります。

最後に、勉強の話です。夢をかなえて養護教諭になった今でも、いろいろなことを勉強しています。なぜなら、社会や環境の変化とともに、身に付けておかなければならない知識や技術も変わっていくからです。勉強は何歳になっても必要です。皆さんも勉強頑張ってください。



栄光の足跡

吹奏楽部：県アンサンブルコンテスト奥能登支部大会 銀賞



1月・2月の行事予定



1月	曜	主な行事予定	2月	曜	主な行事予定
15	土	小木地区防災の日	1	火	
16	日		2	水	
17	月		3	木	
18	火	雅楽体験 (1年)	4	金	立志の集い (2年) 理科コンテスト
19	水		5	土	
20	木	租税教室 (3年)	6	日	
21	金		7	月	
22	土		8	火	
23	日		9	水	職員会議
24	月	漢字コンテスト 中学校入学説明会	10	木	
25	火		11	金	建国記念の日
26	水		12	土	
27	木	卒業証書作成体験事業 (3年)	13	日	
28	金	職業人講話 学校集金口座振替日	14	月	
29	土		15	火	小木地区防災の日
30	日		16	水	3年生期末テスト①
31	月		17	木	3年生期末テスト②

防災集会 ～最悪のシナリオを想定せよ～ 12月15日

昨年度から奥能登での地震が頻発しています。地震が起こると、津波が起こる可能性があります。その時はすぐに避難しなくてはなりません。つまり、地震の回数が多いということは、津波が起こる可能性が高まり、それは小木中学校が避難所として開設される可能性が高まっているということです。



では、小木中が避難所として開設された場合、中学生は何をすることができるのでしょうか。また、避難所に多くの人たちが避難してきた場合、スムーズな運営ができるのでしょうか。この2点について生徒会執行部の進行で考えていきました。

集会には、小木地区自主防災組織の蟹さん、坂下さん、金沢大学の青木先生に参加していただき、青木先生からは今後の防災活動についてご助言をいただきました。

テーマ① 地震が起こったら、中学生は何をすることができるのか？

Aグループ

- 机の下に隠れる（自分の身を守る）
- 避難する（体育館、グラウンド）
- 地域の人を案内する（間仕切り）
- 非常食や水を配る
- 子守世話をする（一人で来たとき保護をする）
- 防災かるたで遊ぶ 防災グッズを作る（スリッパ）



Bグループ

- 身を護る
- 人数の確認（それぞれの地区の避難した人）
- 間仕切り
- 食料配布
- お年寄りにマットを準備する
- 避難した人を避難場所に誘導



Cグループ

- 机などの下に隠れる
- 安全を確認してからみんなで体育館などに避難する
- 他の人の安全を確認する
- みんなで協力して食料などを配ったりする



Dグループ

- 身を守る（机の中に隠れる）
- 身の回りの安全確認（家族、家）
- ガスの元栓をしめる
- ブレーカーをすべて落とす
- 避難に必要なものを持ってすぐに避難する（懐中電灯、非常食、水など）
- 近所の人に避難の呼びかけ
- 自分ができる範囲で他の人を手伝う



Eグループ

- 避難所（中学校）に避難する
- 身をまもる（机の下など）
- 家族に声をかける
- 防災バッグを持って逃げる
- 火の元の点検 ブレーカーを落とす
- 見かけた人に声をかける（避難するように勧める）
- 車をできるだけ利用しない



Fグループ

- 自分の命を守る（頭を守ったり、揺れが止まったら火を消したり、ブレーカーを落とす）
- 避難を呼びかける（近所の人に避難することを大きな声で行う）
- 避難を助ける（救助したり、協力する）
- 避難所設立をたすける（間仕切り設置、名簿づくりの協力、食料品を配る）

A~Cグループは学校にいるとき、D~Fグループは家にいるときという設定で、グループごとに話し合いました。どのグループも、状況をイメージしながら意見交換を行っていました。「避難の呼びかけをしながら避難する」「避難してきた人の人数確認」「防災かるたで遊ぶ」という意見は、小学生の頃からの防災活動の成果だと考えられます。



テーマ② 避難所運営はスムーズに行うことができるのか？



避難所が開設されることになると、体育館を開放することになります。その際、避難してきた地域の人たちがあまり不便を感じないように、設備として改善すればよい部分はないか点検しました。その中で、どのグループにも共通して出た意見は、

- ・車椅子を使う人や足の不自由な人が体育館に入りやすくなるには
スロープの設置 洋式トイレの設置 トイレの個室を広くする

というものでした。

D~Fグループは、小木中の備蓄庫に今何がどれくらいあるかを確認しました。初めて備蓄庫に入った生徒もいて、小木地区の人口に対し、備蓄庫にある食料や水、その他の備蓄品の数が少ないことに驚いていました。



- ・小木地区の人口に対して食料や水が少ないので、もう少し増やすことはできないか
- ・冬は体育館がかなり寒いことが予想される。毛布やストーブの数を増やした方がいいのではないか
- ・各家庭に準備している防災バックに、防寒着やマスク、食料を入れておけばよいことを、防災チラシで地域の人たちに伝えてはどうか

金沢大学 青木先生のお話

・災害のシナリオをイメージするときは、最悪の場合を想定してほしい。どんな災害が起こり、どんな人たちが避難してくるか、どれだけのものが必要か分かってくる。

・逃げようと思ったときに逃げられるよう、普段から準備しておく。

・「その時に助ける」ことには限界がある。逃げるべき人（おじいちゃん、おばあちゃん、子どもたち・・・）に逃げてほしいと伝えておくことが大切。チラシを配ったり地域での交流の中で呼びかけたりと、今できることをするということが大切。

・中学生がこのような集会の中で話し合ったことを、地域の人たちに伝えるように工夫してほしい。そのためには、中学生である皆さんが日常の学校生活、地域での活動に一生懸命取り組んでいる姿を見てもらう必要がある。それが地域の人たちに“信用してもらおう”ことにつながる。

